

国公立大学薬学部長（科長・学長）会議

今後の取組課題

報告者：国公立大学

1) 平成31年からの実務実習を想定したトライアル（先行導入）

- ・ トライアル（先行導入）については、各国公立大学が、地区調整機構における実施方法にしたがって、I期に全学生あるいは一部の学生の実習先（薬局・病院）において実施した。II期については実施中である。
- ・ この中で、学習成果基盤型教育（OBE）の考え方に基づいた評価、実務実習実施計画書等の連携ツールを使用し、その効果、課題についても抽出する予定である。
- ・ トライアル（先行導入）における課題については、各地区調整機構で統一的去る、あるいは大学独自で行う実習施設及び学生に対するアンケート等により情報収集を行っている。ただし、I期とII期の間が短かったためI期における課題抽出が十分にできておらず、また、現状II期の途中なので、改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習の特徴である「一貫した薬局実習と病院実習」におけるトライアル（先行導入）が完了しておらず、課題抽出とその解析、解決策の提示は十分にできていない。
- ・ こういった課題抽出や解決策の提示は、基本的には大学単位ではなく各地区調整機構単位で実施すべきで、これを薬学教育協議会等でまとめて課題解決に努めるべきであるが、必ずしもトライアル（先行導入）やその課題抽出が各地区調整機構で統一的去るいは同じ理念で行われているとは言えない状況と考える。その前段階としての各地区調整機構への改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習に関する情報伝達（ガイドライン等）、ひいては各大学や都道府県の薬剤師会、病院薬剤師会への情報伝達に差があり、いわゆる地域差が生じていると感じるところである。

2) 国公立大学としての取り組み

- ・ 国公立大学では、高度先導的薬剤師プログラムの担当者会議等を通して上記のような改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習に関する情報の共有化を図るとともに、当該プログラムの報告書やシンポジウムを通して、実務実習に関する各大学の取り組みの共有化を図っている。また、当該プログラム事業として、グローバルをテーマに大学間の連携による取り組みを実施しているところであり、今後これらを踏まえて国公立大学としての改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習の在り方について十分に検討し、独自の提言につなげたいと考える。
- ・ 国公立大学は、各地区調整機構の構成員として上記のような地区単位での改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習に向けた準備、体制整備を進めるとともに、改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習の在り方については、上記のような高度先導的薬剤師プログラム等の事業として、当該実務実習1年目の平成31年度の実施状況の把握、検証を行い、あらためて課題抽出、課題解決策の提言、さらには教育効果の高い実務実習に向けた提言を行う予定である。

3) 改訂モデル・コアカリキュラム及び薬学実務実習に関するガイドラインについての説明・周知

- ・ 先述したように、改訂モデル・コアカリキュラム及び薬学実務実習に関するガイドラインの説明・周知については、大学単位の差ではなく、地域差が大きいと考える。これは、地区調整機構の課題ではあるが、それをまとめる中央調整機構委員会あるいは薬学教育協議会の在り方、地区調整機構への情報伝達の方法に問題があるとすれば、早急な改善が必要である（連絡会レベルでの課題抽出と解決策の提言が必要である）。